

名谷防災福祉コミュニティ

地域おたすけガイド

災害時初動対応マニュアル

地域おたすけガイドの作成にあたって

- ◎地域おたすけガイドは、地域の皆さんが災害時に活動する際に、活用するものです。
- ◎災害時は周囲の状況をよく確認し、自らの安全を確保し、無理をせず、自分たちのできる範囲で活動を行うことが大前提です。
- ◎防コミで訓練を通して繰り返し検証して、名谷地域に適したガイドにするために、どんどん見直していきましょう。
- ◎毎年一回は総会等で確認する機会を設けましょう。

令和3年1月作成

名谷ふれあいのまちづくり協議会

目次

1	地域全体の基礎的情報	
	運営・ブロック本部 避難場所	
	設置基準	1
	防災資機材庫（地域福祉センター）	2
	防災資機材庫（神和台北公園）	3
2	避難情報	4
3	各家庭での災害対応	5
4	非常持ち出し品	6
5	災害活動	
	事前準備	7
	風水害	8
	地震	9
6	避難者リスト	13
7	避難者調査票	14
8	指示書	15
9	防災マップ	20

■ 名谷地域の主要施設・設備等

防コミ運営本部	名谷地域福祉センター					
ブロック本部 (集合場所)	奥畑 (奥畑公民館)	神和台 (神和台集所)		中山 (中山公民館)	バルデ (バルデ集会所)	
	滑 (滑公民館)	西名 (西名公民館)		東名 (東名公民館)		
防災資器材庫	名谷地域福祉センター			神和台北公園		
緊急避難場所	名称	土砂	洪水	津波	備考	避難所
	福田中学校	△	○	○	≪土砂災害時≫ 武道館・体育館は 使用できません 078-708-1670	○
災害時要援護者 台帳保管場所	—————					
防災行政無線 保有者	名谷地域福祉センター			防コミ委員長宅		
地域の危険箇所	別添 防災マップ参照					
その他必要事項						

防コミ運営本部設置基準

- 震度5強以上の地震による災害が発生し、又は災害が拡大する恐れがある場合。
- 特別警報が出された場合。
- 委員長及び役員が連絡を取り合い、必要だと判断した場合。
- 上記のほか、大雨等で神戸市に土砂災害警戒情報が発表され必要と判断した場合。

■ 神和台北公園 防災資機材庫収納品リスト


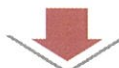
鍵保管場所：名谷地域福祉センター・神和台自治会

鍵保管者氏名： 名谷防災福祉コミュニティ委員長
： 神和台自治会 防災部 部長

用途	品名	個数	用途	品名	個数
消 火 用	消火器	7	そ の 他	ヘルメット	20
	布バケツ	30		携帯用電灯	3
				発電機 900	1
				一輪車	2
				投光器 (三脚付)	1
				ポリタンク (飲料用)	2
				机 災害本部用 (寄贈)	17
				椅子 災害本部用 (寄贈)	100
救 助 用	スコップ	15			
	折りたたみのこぎり	3			
	オノ	1			
	ハンマー	3			
	簡易ジャッキ	1			
	ツルハシ	4			
	折りたたみ担架	1			
			MEMO		
			令和2年3月7日 神和台自治会から下記寄贈		
			① 机	17台	
			② 椅子	100台	


確認日：令和2年10月1日

■ 避難情報について

警戒レベル	避難情報	求められる行動
<p>警戒レベル</p> <p>3</p> <p>高齢者等は避難</p>	<p>避難準備・高齢者等避難開始</p> <p>大雨や暴風が続くと見込まれ、土砂災害や洪水が発生する可能性が高まっている状況。</p>	<p>お年寄りの方、体の不自由な方、小さな子供がいらっしゃる方など、避難に時間がかかる方と、その避難を支援する方は避難を開始して下さい。それ以外の方は、いつでも避難ができるように備えて下さい。</p>
		
<p>警戒レベル</p> <p>4</p> <p>全員避難</p>	<p>避難勧告</p> <p>土砂災害や洪水などが発生する恐れがあり、命が危険にさらされる可能性が高まっており、避難が必要。</p>	<p>速やかに避難を開始して下さい。外が危険な場合は、自宅2階以上の部屋など（土砂災害の場合は山と反対側）に避難して下さい。</p>
	<p>避難指示（緊急）</p> <p>災害の前兆現象が発生、切迫した状況から命が危険にさらされる可能性が高まっている状況。緊急に避難が必要。</p>	<p>緊急に避難して下さい。外が危険な場合は、自宅2階以上の部屋など（土砂災害の場合は山と反対側）に避難して下さい。</p>
		
<p>警戒レベル</p> <p>5</p>	<p>災害発生情報</p> <p>既に災害が発生している状況。</p>	<p>ただちに命を守る最善の行動をとって下さい。</p>

※警戒レベル1及び2は気象庁が発表

■各家庭での災害対応

各家庭で日頃から災害への備えをしておく	確認欄
非常持ち出し袋等の準備をしておく。 ※非常食の消費期限等に注意しておくこと。	
まちの危険箇所、避難所までの経路等、普段から住んでいる地域の状況を把握しておく。	
外出先で被災した場合等を考え、家族の連絡方法や集合場所を決めておく。	
緊急時に気象情報や避難情報をいち早く発信する「ひょうご防災ネット」 (http://bosai.net/kobe/)等の情報サービスに登録しておく。	


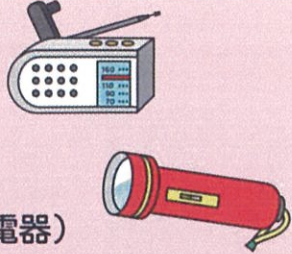

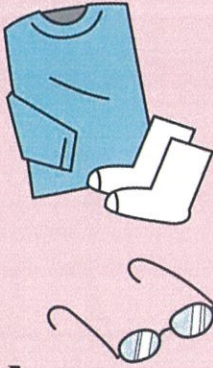


台風や大雨が接近した場合の災害対応のポイント

<p>① 正確な情報を収集する</p>  <p>テレビ、ラジオ、スマートフォンなどを使って、正しい情報を得る。</p>	<p>② 早期の自主避難を心がける</p> <p>情報をもとに避難のタイミングを決める。 名谷地域には土砂災害警戒区域が南北（特に北部）に多く、予想を超える災害の発生も予想される。 心配であれば危険が近づく前に、早期の自主避難を心掛ける。予め避難所（名谷小学校 078-707-2481）に問い合わせると確実。</p> 	<p>③ 自宅待機で安全を確保</p>  <p>夜間や暴風時の避難は危険な場合もある。屋内の安全な場所で待機する。</p>
--	---	--

地震が発生した場合の災害対応のポイント

<p>① まず身の安全を守る</p>  <p>しせいを低く 頭を守って 動かない</p> <p>地震の揺れを感じたら、まず姿勢を低くし、丈夫なテーブルの下に隠れたり、座布団等を使って頭を守り、ある程度揺れがおさまるまで、じっと動かない。</p>	<p>② 家族の安全を確認する</p>  <p>家具が倒れてこないような家の中の安全な場所に避難する。</p>	<p>③ 火・電気を始末する</p>  <p>CHECK! CHECK!</p> <p>火器の火を止め、ガスの元栓を締める。電気のブレーカーを落とす。</p>	
<p>④ 避難経路を確保する</p>  <p>建物がゆがんでドアがあかなくなれば危険。ドアや窓を開けておく。</p>	<p>⑤ 身支度を整える</p>  <p>靴を履き、あらかじめ用意しておいた防災グッズや工具等を確保する。</p>	<p>⑥ 屋外の状況を確認する</p>  <p>ガレキによる転倒や落下物等、飛び出さずに確認してから外へ逃げる。</p>	<p>⑦ 正確な情報を収集する</p> <p>正しい情報を聞くことが大切</p>  <p>テレビ、ラジオ、スマートフォンなどを使って、正しい情報を得る。</p>

■非常持ち出し品を備えておきましょう

<p>貴重品</p> <input type="checkbox"/> 現金（公衆電話用に 10 円硬貨も） <input type="checkbox"/> 預貯金通帳 <input type="checkbox"/> カード類 <input type="checkbox"/> 印鑑 <input type="checkbox"/> 免許証 <input type="checkbox"/> 権利証書 <input type="checkbox"/> 健康保険証 <input type="checkbox"/> 貴金属類 <input type="checkbox"/> 予備鍵（自宅・車等） <input type="checkbox"/> 住所録のコピー		<p>情報・照明</p> <input type="checkbox"/> 携帯ラジオ <input type="checkbox"/> 懐中電灯 <input type="checkbox"/> 予備の乾電池 <input type="checkbox"/> 携帯電話（充電器）	
<p>飲料水・非常食・食器類</p> <input type="checkbox"/> 飲料水 <input type="checkbox"/> 乾パン・クラッカー <input type="checkbox"/> チョコレート・キャンデー <input type="checkbox"/> 缶詰（缶切りも） <input type="checkbox"/> 皿・コップ <input type="checkbox"/> 箸・フォーク・スプーン 【乳児用】 <input type="checkbox"/> 粉ミルク・哺乳瓶、離乳食		<p>生活用品</p> <input type="checkbox"/> 上着類（防寒用） <input type="checkbox"/> 下着類（着替え用） <input type="checkbox"/> タオル・ハンカチ <input type="checkbox"/> ライター・マッチ <input type="checkbox"/> 万能ナイフ類 <input type="checkbox"/> 使い捨てカイロ 【目・耳の不自由な方】 <input type="checkbox"/> メガネ・コンタクトレンズ <input type="checkbox"/> 補聴器	
<p>装備</p> <input type="checkbox"/> ヘルメット・防災ずきん <input type="checkbox"/> ホイッスル <input type="checkbox"/> 軍手・ゴム手袋（厚手のもの） <input type="checkbox"/> 運動靴		<p>救急・衛生</p> <input type="checkbox"/> 救急用品セット <input type="checkbox"/> はさみ・ピンセット・刺抜き <input type="checkbox"/> 持病薬・常備薬 <input type="checkbox"/> マスク <input type="checkbox"/> トイレットペーパー <input type="checkbox"/> ウェットティッシュ 【女性・幼児・お年寄り】 <input type="checkbox"/> 生理用品 <input type="checkbox"/> 紙おむつ	

【ポイント】

*荷物は1人ひとつとし、運びやすいようリュックサックにコンパクトに！

（男性 15kg、女性 10kg まで）

*飲料・食品の賞味期限、薬品や電池の使用期限をチェック！保存食は交換時に試食する。

*衣類など、季節で変わる必需品を取り替える為に、年2回、春と秋にチェック！

*各家庭で最低でも3日分、できれば7日分のご用意を！

*さらに詳しい非常持ち出し品やその活用方法等については、

神戸市のホームページ「災害時に備えたい備蓄品」をご参照下さい。→



■事前の準備

防災福祉コミュニティ	確認欄
非常時に連絡が取り合えるよう、防コミや各自治会の名簿・連絡網等を整理しておく。 ※P.5～P.6 を参照	
各避難所の夜間時の開門の方法を確認しておく。 ※P.1 を参照	
各避難所の開設（門や体育館の開放手順等）や運営について、施設関係者との協議を進めておく。	
各避難所の備蓄品等を確認しておく。	
防災資機材庫のカギの所有者、保管場所を確認しておく。 ※P.1 を参照	
防災資機材庫の収容品等を確認しておく。 ※P.2～P.3 を参照	
集合住宅の集会所やスピーカー等、非常時に活用できる施設の場所や設備の整備を進めておく。	
消火器等必要な機材の配備・管理・整備を進めておく。	
日頃から各家庭で災害への備えをしておくよう意識啓発を進めておく。 ※P.5 参照	
各家庭でも非常持ち出し品を備えるよう呼び掛ける。 ※P.6 参照	
トランシーバーや無線等の連絡用機材、消火器や小型動力ポンプ等、初期消火用機材の使い方の訓練をしておく。	
防コミ運営本部立ち上げのための備品（ホワイトボードや筆記具、ポストイット等）、避難者名簿等を準備しておく。	
地域の安全確認用地図、避難経路確認図を準備しておく。	
民生委員等と協力し、各自治会で避難支援が必要な人の対応について協議しておく。	

■風水害発生時における災害対応

【災害発生前】

防コミ役員間での連絡 ⇒ 災害対応方針の決定	確認欄
気象情報、土砂災害警戒情報等を収集し、地域の状況を整理し、名簿や連絡網を用いて電話等で連絡をとり、住民への呼びかけや運営本部開設等、災害対応の方針について確認を行う。	
防コミ運営本部の立ち上げ	確認欄
必要と判断された場合、予め決められた役員は名谷地域福祉センターに集まり、防コミ運営本部を立ち上げる。	
本部に駆けつけた役員の中から統括防災リーダーを決定し、また必要に応じて副統括防災リーダーを配置する。	
統括防災リーダーは予想される被害状況等を考慮し、必要に応じて集まってきたメンバーを配置して活動班を編成する。	

各行政機関連絡先

垂水区役所 7 0 8 - 5 1 5 1
 垂水消防署 7 8 6 - 0 1 1 9
 垂水警察署 7 8 1 - 0 1 1 0
 垂水建設事務所 7 0 7 - 0 2 3 4

※避難所に関することは、垂水区役所に連絡する。

【災害発生後】

※安否確認、自力での避難が困難な人の避難支援、救出活動等具体的な災害対応活動については、次ページ以降の「地震発生時における災害対応」参照

■地震発生時における災害対応

【災害発生直後】

防コミ運営本部の立ち上げ	確認欄
<p>予め決められた役員は名谷地域福祉センターに集まり、防コミ運営本部を立ち上げる。</p>	
<p>本部に駆けつけた役員の中から統括防災リーダーを決定し、また必要に応じて副統括防災リーダーを配置する。</p>	
<p>統括防災リーダーは予想される被害状況等を考慮し、必要に応じて集まってきたメンバーを配置して活動班を編成する。</p>	
<p>避難所にたどり着いた人から、避難する過程で得られた近隣の被害状況や安否確認の情報等を聞き出す。</p>	
<p>持ち寄られた情報をもとに、必要ならば活動班の編成を行い、対応すべき災害に応じて次ページ以降の災害対応活動を行う。</p>	
各避難所の開設	確認欄
<p>学校関係者や区役所職員と協力して名谷小学校・福田中学校に避難所を開設する。</p>	
<p>夜間や休日等、避難所に関係者がいない場合は、予め協議・確認した手順で校門や体育館を解放する。 ※体育館を解放した場合、垂水区役所（☎078-708-5151）に連絡する。</p>	
<p>避難者を受け入れ、避難者調査票等を活用し、避難者世帯リストを作成・整理する。 ※P.13～p.14 を参照</p>	
<p>避難する過程で得られた被害状況や安否確認情報を、避難者から聞き取り、防コミ運営本部に伝達する。</p>	
<p>負傷者に止血等の応急手当を実施し、必要であれば医療機関等へ搬送する。</p>	

情報収集・伝達		確認欄
情報伝達の手段や順番（誰が誰にどのように伝えるのか）を、連絡網や集まってきたメンバーを考慮して決定する。		
防災行政無線、ラジオ、テレビ等から被害情報等を収集する。		
避難者や各自治会が持ち寄った地域内の被害状況等を整理する。		
気象情報や地域内の被害状況や指示内容等を、各自治会や各活動班に伝達する。		
被害情報、活動情報等を区役所や消防署、警察署等に伝達する。		
安否確認		確認欄
収集した安否確認情報をもとに、安否確認活動が実施できるよう人員の割り振りを行う。		
必要な地区に訪問し、建物の外観の確認や声かけ・呼びかけを実施し、安否不明者の確認を行う。		
自力での避難が困難な人の避難支援		確認欄
自力での避難が困難な人（災害時要援護者や障がい者、お年寄り、妊婦、負傷者等）の避難誘導が実施できるよう人員の割り振りを行う。		
自宅の損傷の状況等により、自力での避難が困難な人の避難支援を行う。		
状況により自宅避難となった場合も、その情報を避難所に集約する。		

救出・救護活動		確認欄
避難者や各自治会からの被害情報等に基づき、救出活動が実施できるよう人員の割り振りを行う。		
二次災害に注意しながら、防災資機材等を活用し、倒壊家屋等からの救出活動を行う。		
負傷者の救護（応急手当）を実施する。		
消火活動		確認欄
避難者や各自治会からの被害情報等に基づき、消火活動が実施できるよう人員の割り振りを行う。		
火災を発生させないよう周囲の人に、「火器の火を止める」「ガスの元栓を締める」「電気のブレーカーを落とす」といった声かけを行う。 ※P.5 参照		
消火器や小型動力ポンプ等、あらゆる消火器具等を活用し、初期消火を行う。		

【災害発生から数時間～3日(72時間)くらい】

防コミ運営本部の運営		確認欄
各ブロック役員との連絡を通じ、地域内の被害状況等を収集・整理する。		
収集・整理した情報を、区役所、消防署、警察署等に伝達する。		
必要に応じて、避難所の問題に対応するための情報や人員を収集・派遣する。		
避難所の運営		確認欄
正式な避難者カード等を活用し、避難者のより詳細な情報を名簿にまとめる。 ※P.15 参照		
災害時要援護者に配慮する。 (本人や家族の意向をふまえて、避難所内に一般の人と区分けした福祉避難所室を設けるなどの対応：たとえば、学校の保健室の利用など) ※特に、知的や精神、発達障がい者のうち、集団生活に対応することが困難な人、透析患者やオストメイト(人工肛門など)などの内部障がい者について、特別な配慮が必要であることを他の避難者に理解してもらうことが重要。		
避難者名簿の記載事項に基づき、持病がある人等に適切な処置が施せるよう聞き取り調査を行う。		
福祉避難所が開設されれば、名谷地域福祉センター等、避難所外部の福祉避難所へ、災害時要援護者を移動する。		
女性や子育て家庭、一緒に連れて避難してきたペットなどに配慮する。		
必要に応じて、自宅で待機している人等へ、情報や物資の提供を行う。		
生活情報の収集・周知		確認欄
生活情報の収集および住民への周知を行う。		
防火・防犯パトロールの実施		確認欄
パトロール班を結成し、二次災害に注意しながら、交代で地域内のパトロールを行う。		

避難世帯リスト

	世帯主氏名	住所(垂水区以降の住所)	男性(人数)	女性(人数)	合計(人数)	到着時刻	帰宅時刻
1							
2							
3							
4							
5							
6							
7							
8							
9							
10							
11							
12							
13							
14							
15							
16							
17							
18							
19							
20							

※ 垂水区以外の避難者は都道府県名から住所を記入すること

※ 避難者が20世帯を超える場合は2枚目以降に記入すること

調査票No.()

避難者調査票

取扱注意

※太枠部分は必ずご記入ください。他の記載欄は職員が記入します。

緊急避難場所名 ()

①記入時点	年 月 日 時 分	②入所日	年 月 日
③代表者氏名		氏名	
④住所	〒 -	④親族などの連絡先	住所
			連絡先 () -
⑤電話番号	() -	⑤自宅の被害状況	<input type="checkbox"/> 全壊 <input type="checkbox"/> 大規模半壊 <input type="checkbox"/> 半壊 <input type="checkbox"/> 一部損壊 <input type="checkbox"/> その他()
⑥電話番号(携帯)	() -	⑥避難場所	<input type="checkbox"/> 建物内() <input type="checkbox"/> 車中泊(避難場所敷地内) <input type="checkbox"/> 持参テント(避難場所敷地内) <input type="checkbox"/> その他()
⑦車種・色・ナンバー			
⑧避難場所滞在理由	<input type="checkbox"/> ライフライン不通(電気・ガス・水道・電話) <input type="checkbox"/> 余震が不安 <input type="checkbox"/> 自宅の片づけができない <input type="checkbox"/> 必要な物資が手に入らない <input type="checkbox"/> その他()		

⑨家族構成など		⑩以下に該当するものがあれば項目を○で囲ってください	⑪健康状態確認・備考欄(病気や食物アレルギーなど)
フリガナ氏名	年齢続柄		
代表者	年 月 日生 歳	ア. 要介護3以上 イ. 障がい(身体・知的・精神・発達・内部) ウ. 難病 エ. 妊産婦・乳幼児	<input type="checkbox"/> 熱(37.5度以上)がある、熱っぽい <input type="checkbox"/> 咳、鼻水、咽頭の痛み、倦怠感などがある <input type="checkbox"/> 2週間以内に感染症患者との接触あり (退所日、退所先)
ご家族等	年 月 日生 歳	ア. 要介護3以上 イ. 障がい(身体・知的・精神・発達・内部) ウ. 難病 エ. 妊産婦・乳幼児	<input type="checkbox"/> 熱(37.5度以上)がある、熱っぽい <input type="checkbox"/> 咳、鼻水、咽頭の痛み、倦怠感などがある <input type="checkbox"/> 2週間以内に感染症患者との接触あり (退所日、退所先)
ご家族等	年 月 日生 歳	ア. 要介護3以上 イ. 障がい(身体・知的・精神・発達・内部) ウ. 難病 エ. 妊産婦・乳幼児	<input type="checkbox"/> 熱(37.5度以上)がある、熱っぽい <input type="checkbox"/> 咳、鼻水、咽頭の痛み、倦怠感などがある <input type="checkbox"/> 2週間以内に感染症患者との接触あり (退所日、退所先)
ご家族等	年 月 日生 歳	ア. 要介護3以上 イ. 障がい(身体・知的・精神・発達・内部) ウ. 難病 エ. 妊産婦・乳幼児	<input type="checkbox"/> 熱(37.5度以上)がある、熱っぽい <input type="checkbox"/> 咳、鼻水、咽頭の痛み、倦怠感などがある <input type="checkbox"/> 2週間以内に感染症患者との接触あり (退所日、退所先)

聞き取りメモ(職員記入欄) 記入者名()

--

安否確認のための問合せへの対応(氏名及び住所)に同意しますか？(同意する・同意しない)

※この用紙に記入していただく情報については、食料や物資の配布、健康に関する支援などを行うため、区災害対策(警戒)本部や二次的避難先と情報を共有しますが、それ以外に使用致しません。

情報収集・伝達

1. ラジオ、テレビ、防災行政無線等で地震情報等の収集を行う。
2. 地域内の災害情報を把握する。

情報収集・伝達手順

1. 情報収集

収集した情報はホワイトボード等に時系列で記載する。

①ラジオ等での情報収集

通信手段が確保されている場合は、ラジオ、テレビ、防災行政無線のほか、電話等も活用する。

②行政からの情報収集

各種機関へ直接連絡を取り、必要な情報を収集する。また、定期的に区役所等に向くなどして、公開されている情報を収集する。

③各自治会からの情報収集

地区内の被害状況や避難状況等の情報を収集する。

2. 情報伝達

情報を伝える手段として、ハンドマイク、広報掲示板、回覧板も効果的に活用する。

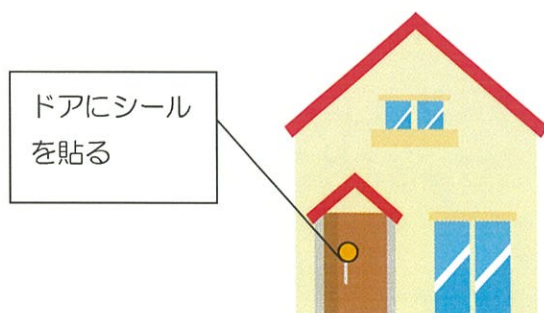
安否確認

1. 安否確認情報を収集・名簿の作成
2. 安否不明者の確認を行う。
民生・児童委員等と協力し安否確認を行う。

訪問先での確認手段

1. 外観の確認
建物に甚大な被害がないかを確認する。
2. 声かけ・呼びかけ確認
門の外側で大きな声で呼びかけ、安否を確認する。
3. ドアをノックする
応答がないときは、呼びかけと一緒にドアをノックする。
4. 庭、勝手口等の確認
状況が把握できないときは、庭、勝手口などを確認する。
5. 確認シールの貼付
 - ・確認した状況に応じて、玄関ドアにシールを張り付けする。
 - ・シールの色分け

- 救助支援必要あり
- 安否確認できず
- 確認済み・支援必要なし



自力での避難が困難な人の 避難支援

1. 自身の安全を確保した上で、二次災害に気をつけながら可能な限りで、避難する必要のある人の支援を行う。
2. 避難所に集まった人で、支援者の割り振りをを行う。

避難支援のポイント

1. 一人暮らし高齢者
迅速な情報伝達と避難誘導、安否確認および状況把握が必要。
2. 寝たきりの要介護高齢者
避難時は車いす、担架、ストレッチャー等の補助器具が必要なことがある。
3. 認知症の人
安否確認、状況把握、避難誘導の援助が必要。
4. 視覚障がい者
音声による情報伝達や状況説明、避難誘導等の援助が必要。
5. 聴覚障がい者
補聴器の使用や、手話、文字、絵図等を活用した情報伝達および状況説明が必要。
6. 言語障がい者
手話、筆談等によって状況を把握することが必要。
- 7 在宅人工呼吸器使用者
避難所での電源確保が必要。

救出・救護活動

1. 防災資機材（ジャッキ、のこぎり、バール等）を活用し、協力して救出活動を行う。
2. 救護（応急手当）を実施する。
3. 避難所に集まった人で、救出・救護活動人員の割り振りを行う。

救出・救護手順

1. 被害の実態把握

- ①倒壊建物に取り残されている人がどのような状態か（けがの程度も含めて）確認する。
- ②建物の倒壊状況および内部に進入するスペースがあるかを確認する。
- ③二次災害が発生する危険要因がないか確認する。

2. 二次災害の防止

- ①木片、トタン、ガラス等の軽量物を除去する。
- ②柱、梁等の大きな物の周辺物を除去するときは、これらの大きな物がずれたり倒壊しないようにロープ等で支持、固定する。
- ③火災の発生に備え、消火器や水バケツを用意する。ガスの元栓や電気のブレーカーは早期に閉止や遮断を行う。

3. 要救助者の救出

- ①要救助者の近くまで掘り進んだ後は資機材を使わずに手作業にする。
- ②要救助者を無理に引き出そうとしない。

4. 応急手当

出血しているときは清潔なガーゼ等で傷口を圧迫止血する。

消火活動

1. 研修を受けた人が中心となり、耐震性防火水槽の小型動力ポンプ等を活用し、初期消火を行う。
2. 出火場所を確認し、消火活動人員を割り振る。

消火活動手順

1. 消火用水の選定

- ①火元に近い消火用水を選定し、強風時には風上側を使うなど風向きに注意する。
- ②河川使用時はストレーナーを水の流れに向けて投入し、浮かばないようにする。
- ③ポンプから水面までの高低差は7m以内を目安とする。

2. ホースの延長要領

- ①道路、建物の曲がり角では大きく曲げて、折れやねじれ、引きずりを避ける。
- ②ホースの結合は漏水しないように確実にを行う。

3. 送水の時期

- ①ホースの延長状況や筒先担当の「放水始め」の合図があってから送水する。
- ②放水口コックを開けるときはノズルの反動力を考え徐々に行う。

小型動力ポンプの使い方

- ①燃料コックを開にする
- ②スロットルダイヤルの白矢印を「始動・吸水」に合わせる
- ③気候の寒暖に応じてチョークノブを引く
- ④スターターハンドルを強く引っ張りエンジンを始動する
- ⑤吸水レバーを押し下げて、吸水できればハンドルを上(放水)に戻す
- ⑥放口バルブをゆっくり左回りに回しながら全開にし、放水する

